

将棋の歴史をひも解く 最古の将棋盤を発見

高浜 I 遺跡（出雲市）調査年：2010 年 今岡一三

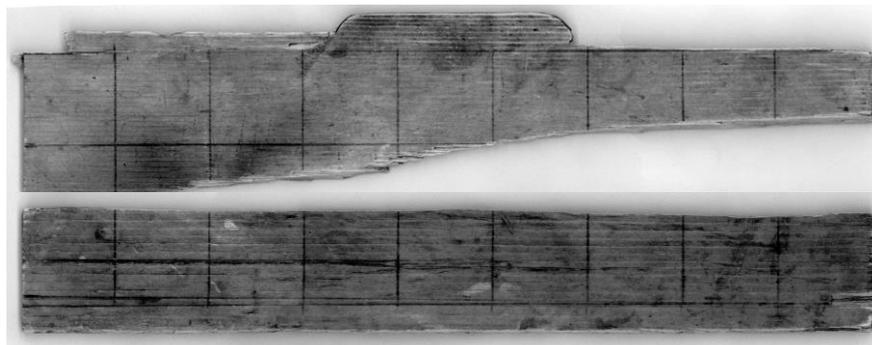
竜王、王位、^{えいおう}叡王、棋聖と言え。そう、これは将棋のタイトルのことです。このタイトル保持者の藤井聡太さんの快進撃が目覚ましく、今年、王将戦を制して最年少 5 冠達成。すごいですね。

なぜ将棋の話をしたのかと言うと、私が将棋に興味を持つきっかけとなった遺跡があるからです。それは出雲市高岡町の高浜 I 遺跡。中世の有力者の居館跡と考えられ、建物跡の横にあるゴミ捨用の穴の中から将棋盤が出土しました。残念ながら盤全体の 4 分の 1 にあたる板 2 枚だけしかなく、見た目には将棋盤に見えませんが、赤外線当てると墨で引いたマス目がくっきりと浮かび上がります。15 世紀中頃～16 世紀初頭（室町時代）のもと考えられ、駒も 2 点見つかりました。

全国で駒の出土例は約 100 の遺跡で 500 点以上確認されているのに対し、盤は東京都溜池遺跡の 19 世紀中頃（江戸時代後期）のもの 1 例のみと極めて稀です。今回 2 例目となり、しかも驚いたことに現存する将棋盤としては最古のものでした。このことは全国的にも大きな話題となり、その対応に日々追われたことを今でも覚えています。

ところで、将棋はいつ日本に伝わったのでしょうか。将棋の起源は古代インドのゲームにあるとされ、日本への伝来時期は奈良時代から平安時代と言われていますが、奈良県正

倉院の宝物殿に囲碁盤、^{まごろく}双六盤は納められているのに将棋盤は存在しません。つまり 8 世



将棋盤の赤外線写真

紀（奈良時代）にはまだ伝来してなかったと考えられます。11世紀（平安時代）になって初めて将棋の史料が現れ、^{ふじわらあまひら}藤原明衡の『新猿楽記』に将棋が技芸の一つと記されています。さらに、奈良県興福寺旧境内から11世紀中頃の最古の駒が出土していることから、11世紀までには間違いなく伝来していたのでしょう。

12世紀末（平安時代末）～13世紀初頭（鎌倉時代初期）に記された藤原定家の日記『明月記』には盤の存在を示す記述があります。また、同時期の絵巻物である『鳥獣戯画』には紙の盤で将棋を指している絵が描かれており、木製の盤が無くても自由に将棋を楽しんでいたようです。しかし、この頃の将棋は現在のものと違って大将棋、中将棋など様々あり、盤面も違うとのことで、果たしてどのような形をしていたのか気になります。

江戸時代までに今の形が完成したと言われる将棋。それ以前の盤の形状などは実物が現存しなかったため謎のままでした。今回、最古と言うだけでなく、中世には現在と同じような盤が使われていたことを物証で示すことができた極めて貴重な発見と言えるのです。

最古の将棋盤が見つかった出雲市は、「出雲のイナズマ」と呼ばれる里見香奈女流名人の出身地です。出雲では、時代を超えて女流名人を輩出する土台が当時からできていたのかもしれないね。

（元島根県文化財課企画幹）



将棋盤が出土したごみ捨て用の穴